

抄 録

福島県の実産魚介類への放射能の影響及び水産業の現状

根本芳春・藤田恒雄・渡邊昌人・成田 薫

Levels of Radioactivity in Seafood and the Current Fisheries Activity in Fukushima Prefecture

Yoshiharu NEMOTO, Tsuneo FUJITA, Masato WATANABE and Kaoru NARITA

海洋生物環境研究所研究報告, 第 22 号, 35-42, 2016

福島県では、2011 年 3 月に発生した東京電力株式会社福島第一原子力発電所(以下「福島第一原発」)事故による海産魚介類への放射能の影響について調査し、様々な傾向を明らかにしてきた。この結果を基に 2012 年 6 月から安全な魚種を対象に流通先の評価を調査する試験操業が開始され、時間の経過とともに対象種、漁法、漁場を拡大し、2016 年 6 月現在 73 種を対象に福島第一原発半径 20km を除く福島県沖全域で試験操業が行われている。事故直後には多くの種類で 100Bq/kg を超える放射性セシウムが検出されたが、事故から 5 年が経過して影響は限定的となり、2015 年 4 月以降は、国の基準値(100Bq/kg wet)を超えるものはなく、同年 7 月以降は検査を実施した検体のうち 90%以上が検出限界値未満となっている。本格操業に向けて流通業者や消費者がより安心できるように、科学的データの収集と解析、情報発信が必要であるとともに、長引く休漁によって遅れている生産・流通体制の再構築が急がれる。